

2008 年度

大阪大学人間科学部卒業生及び

大学院人間科学研究科修了生の生活と意識に関する調査結果

2009 年 3 月 24 日 実施

配布数 183 回収数 163 (回収率 89%)

(アンケート用紙は末尾に添付)

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会



このアンケート調査は、本学部卒業生および本研究科修了生の在学中の生活と意識を明らかにするために行われた。アンケート用紙は平成 20 年度卒業式当日(2009 年 3 月 24 日)、人間科学部本館 51 教室で開催された学位授与式において式の出席者に配布され、室内で記入、退室時に回収された。

アンケートは学生自身のこと、所属していた学系のこと、大学教育や卒業後にに関する事項等、16 の質問項目から構成されている。

以下、アンケートの設問順に各問の集計結果を図表で示し、適宜コメントを加える。

### 問 1. 性別

表 1 回答者の性別

	人数	%
1. 男性	69	42.3
2. 女性	94	57.7
計	163	

### 問 2. 生年

表 2 回答者の生年 (西暦)

	人間科学部(人)	学部(%)	大学院人間科学研究科博士前期課程(人)	大学院人間科学研究科博士後期課程(人)	研究科 (%)
1944年			1		2.0
1957年			1		2.0
1961年			1		2.0
1970年	1	0.9		1	2.0
1973年	1	0.9	1		2.0
1976年			1		2.0
1978年			2		4.0
1980年			1	1	4.0
1981年			2		4.0
1982年			2	1	6.0
1983年	3	2.7	8		16.0
1984年	6	5.3	20		40.0
1985年	24	21.2	3		6.0
1986年	69	61.1			
1987年	9	8.0			
無記入			4		8.0
計	113	100.0	47	3	100.0

### 問 3. 卒業、修了の内訳

表 3 回答者の卒業・修了内訳

	人数	%
1. 人間科学部	113	69.3
2. 大学院人間科学研究科博士前期課程	47	28.8
3. 大学院人間科学研究科博士後期課程	3	1.8
計	163	

問 4. 資格の取得状況

表 4 資格取得の内訳

	人数	%
1. 持っていない	79	48.5
2. 持っている	78	47.9
無記入	6	3.7
計	163	

表 5 資格一覧表 (資格名は学生が記載したまま)

資格名	資格の詳細
教員免許 22名	教員免許 8名 第2種小学校教諭 1名 第1種中学校教諭(国語) 1名 第1種中学校教諭(社会) 4名 第1種中学校教諭(英語) 1名 教員免許(中学・高校 理科、養護学校) 1名 高校教員免許 2名 第1種高等学校教諭(国語・公民) 1名 第1種高等学校教諭(地歴・公民) 3名
TOEIC 17名	
英語検定 7名	英語検定 1名 英語検定 2級 5名 英語検定 準2級 1名
日本漢字技能検定 4名	日本漢字技能検定 1名 日本漢字技能検定 2級 3名
フランス語検定 2名	フランス語検定 1名 フランス語検定(DELF B1) 1名
簿記検定 3名	日本商工会議所簿記検定 2名 簿記検定 3級 1名
証券外務員 3名	証券外務員 2名 証券外務員 1種 1名
行政書士 1名	
社会調査士 5名	
専門社会調査士(予定) 1名	
秘書検定 2級 3名	
ファイナンシャルプランナー 3級 1名	
法学検定 1名	
宅地建物取引主任者 1名	
ホームヘルパー 2級 2名	
福祉住環境コーディネーター 3級 1名	
基本情報技術者 1名	
マイクロソフト認定資格 1名	
中型自動車免許 2名	
普通自動車免許 35名	
普通自動二輪車免許 1名	
原動機付自転車免許 1名	
フォークリフト 1名	
心理学検定 2級 1名	
臨床心理士受験資格 1名	
色彩検定 1級 1名	
カラーコーディネーター 2級 1名	
日本カラーミー 3シリーズパーソナルカラーアナリスト 1名	
助産師・看護師 1名	
危険物取扱者 甲種 1名	
硬筆習字 3級 1名	
書道 5段 1名	
珠算 1名	

表 4、5 は資格に関する結果である。取得した資格で重要と思うもの 3 つまでの記入を求めた。ほぼ半数(48.5%)の学生は何らかの資格を取得していた。資格内容は、教員免許が 22 名、語学検定 30 名(うち TOEIC 17 名)、社会調査士 5 名、専門社会調査士(予定)1 名 などであった。

問 5. 奨学金の受給状況

表 6 奨学金の受給内訳

	人数	%
1. 受けていなかった	103	63.2
2. 受けていた	60	36.8
計	163	

問 6. 入学（編入学）年度

表 7 入学(編入学)年度（西暦）

	人間科学部(人)	学部(%)	大学院人間科学研究科博士前期課程(人)	大学院人間科学研究科博士後期課程(人)	研究科(%)
1998年				1	2.0
2000年				1	2.0
2002年	1	0.9			
2003年	1	0.9	4		8.0
2004年	7	6.2		1	2.0
2005年	96	85.0	4		8.0
2006年	3	2.7	4		8.0
2007年	5	4.4	33		66.0
無記入			2		4.0
計	113	100.0	47	3	100.0

問 7. 本学部／本研究科を選んだ理由（複数回答可）

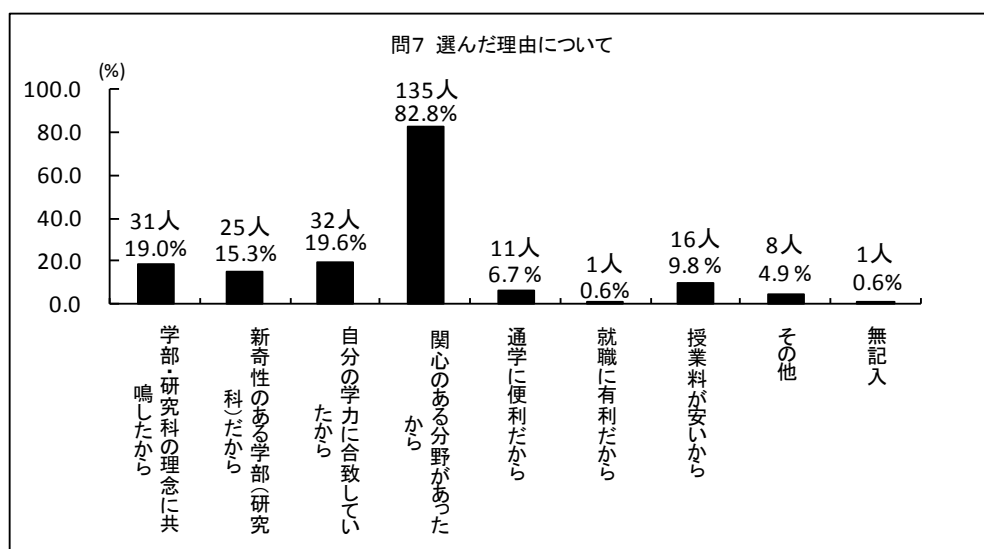


図 1 本学部／本研究科を選んだ理由

図 1 は入学した時に本学部／本研究科を選んだ理由を示したものである（複数回答可）。最も多かった回答が「関心のある分野があったから」135人(82.8%)、次いで「自分の学力に合致していたから」32人(19.6%)、「学部・研究科の理念に共鳴したから」31人(19.0%)の順であった。

### 問 8. 所属学科目／学系

#### 問 8-a 所属していた学科目／各系

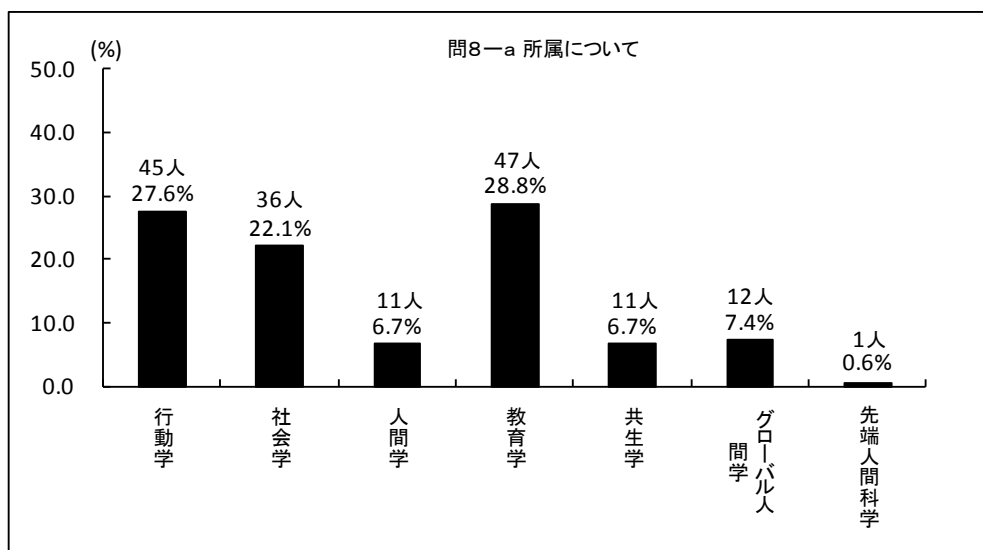


図 2 所属各科目／学系の内訳

図 2 は所属していた学科目／学系の内訳を示したものである。人数が多い順では教育学系が 47 人 (28.8%)、行動学系 45 人(27.6%)、社会学系 36 人(22.1%)であった。

#### 問 8-b 学科目選択時の迷いについて (学部卒業生のみ)

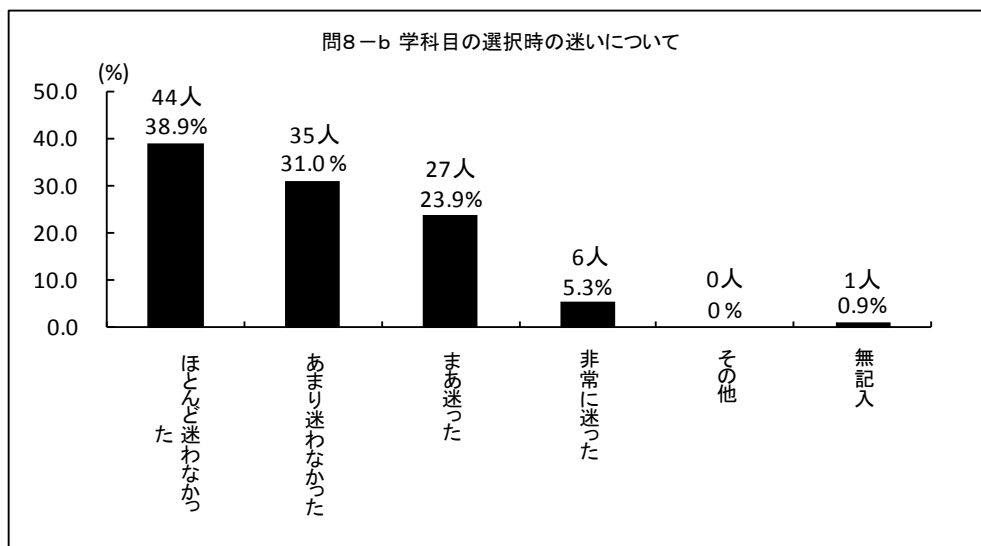


図 3 学科目選択時の迷い

図 3 は学科目の選択時に選択を迷った程度を示している (学部卒業生のみ回答)。「ほとんど迷わなかった」44 人(38.9%)、「あまり迷わなかった」35 人(31.0%)と約 7 割の学生が選択時に迷いは無かったと回答している。「まあ迷った」「迷った」はそれぞれ 27 人(23.9%)、6 人(5.3%)であった。

問 8-c 学科目の選択理由（学部卒業生のみ／複数回答可）

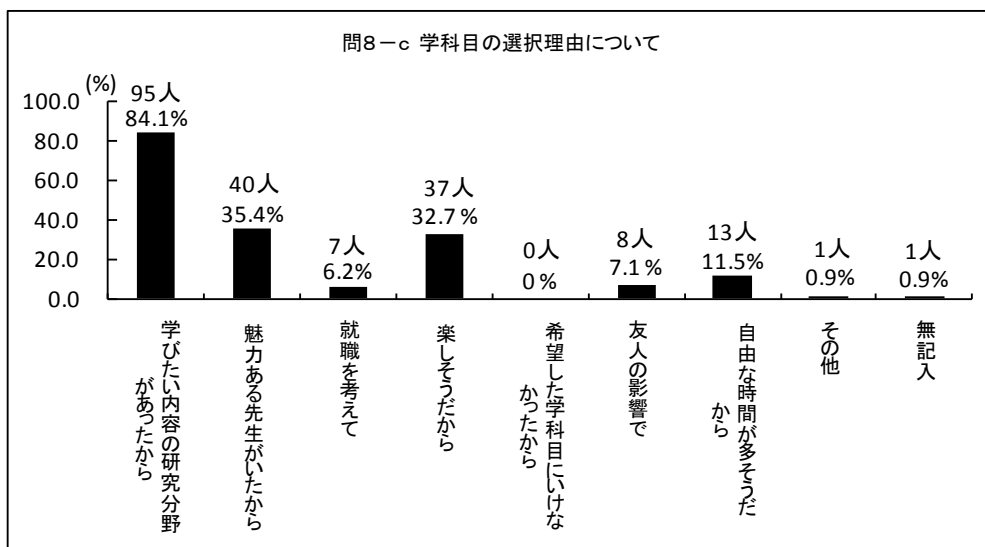


図 4 学科目の選択理由について

図 4 は学科目の選択理由を示したものである（学部卒業生のみ回答／複数回答可）。「学びたい内容の研究分野があったから」95人(84.1%)が最も多く、次いで「魅力ある先生がいたから」40人(35.4%)、「楽しそうだから」37人(32.7%)の順であった。

問 9. 卒業後の人生に役立つ事項について

問 9-a 学んだ内容

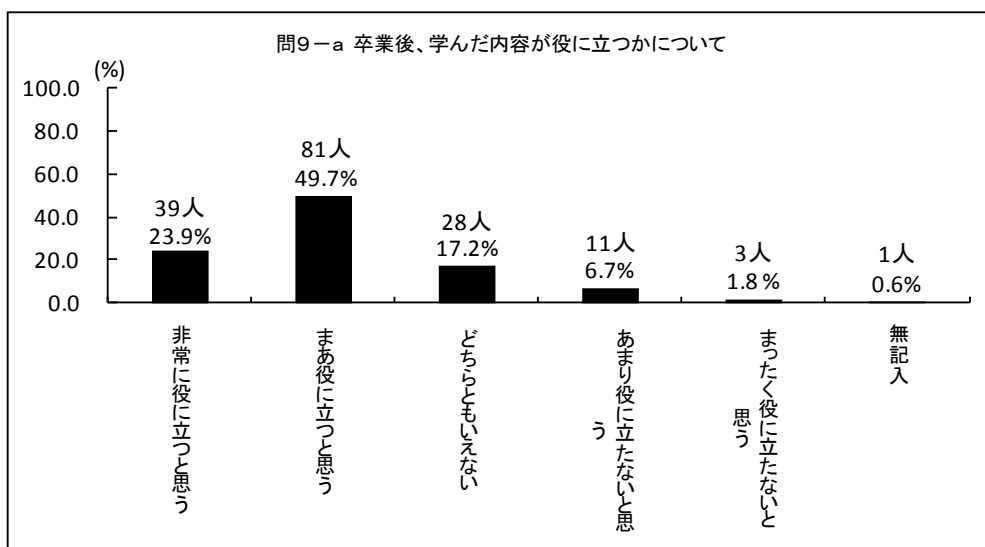


図 5 学んだ内容について

図 5 は、専攻した研究分野で学んだ内容が、卒業後の人生にどのくらい役立つかについて質問した結果である。「まあ役に立つと思う」81人(49.7%)が最も多く、続いて「非常に役に立つと思う」39人(23.9%)、「どちらともいえない」28人(17.2%)の順であった。

問 9-b 「大阪大学」卒業／修了という肩書き

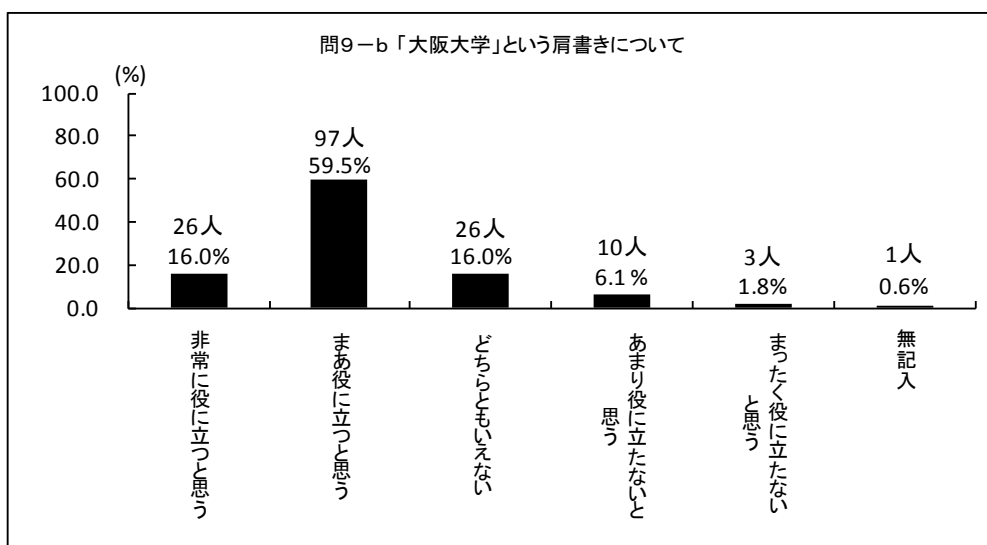


図 6 「大阪大学」の肩書きについて

問 9-c 「人間科学部」卒業／「人間科学研究科」修了という肩書き

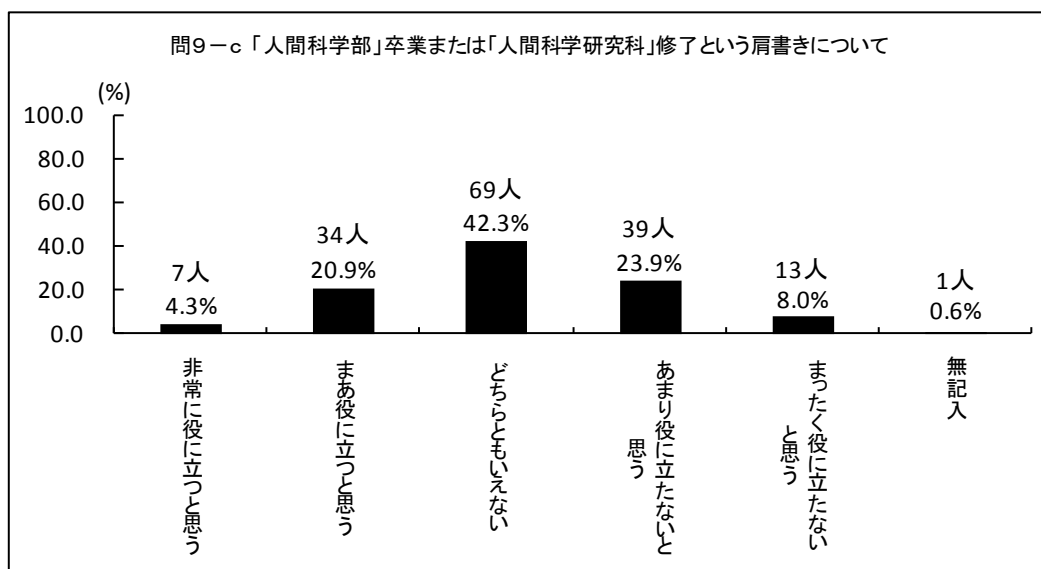


図 7 「人間科学部」卒業または「人間科学研究科」修了の肩書きについて

図 6、7 は肩書きについての質問結果である。「大阪大学」卒業／修了という肩書きでは「まあ役に立つと思う」97人(59.5%)が最も多く、次いで「非常に役に立つと思う」26人(16.0%)、「どちらともいえない」26人(16.0%)の順であった(図 6 参照)。

「人間科学部」卒業／「人間科学研究科」修了という肩書きでは、「どちらともいえない」69人(42.3%)が最も多く、次いで「あまり役に立たないと思う」39人(23.9%)、「まあ役に立つと思う」34人(20.9%)の順であった(図 7 参照)。

「人間科学部」卒業／「人間科学研究科」修了という肩書きよりも、「大阪大学」卒業／修了という肩書きの方が役に立つと感じている学生が多かった。



問 10. 学生（院生）生活で力を注いだ活動事項について

（「非常に力を注いだ」から「力を注がなかった」までを5段階で評定）

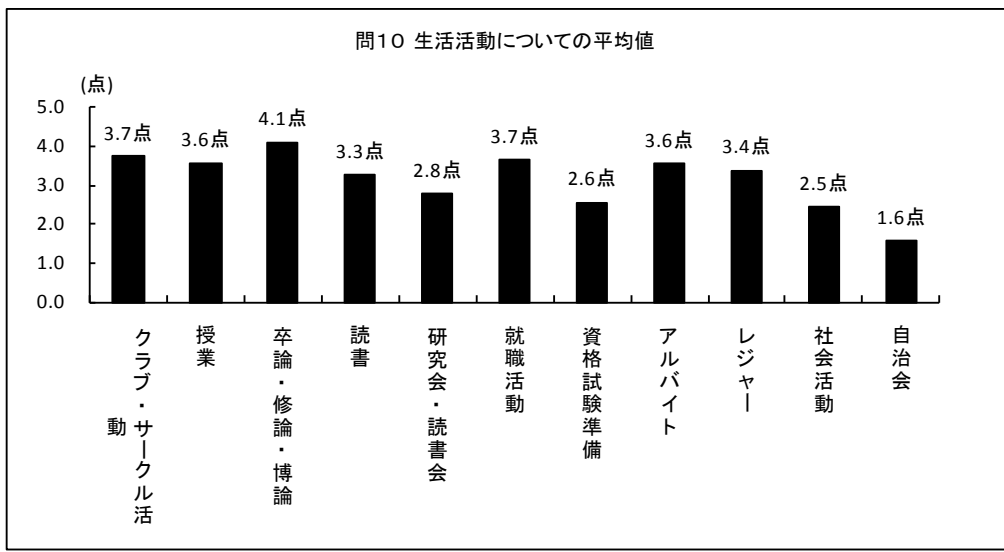


図 8 学生（院生）時代に力を注いだ活動事項

図 8 は学生／院生生活における 11 の活動事項に関して、それぞれどの程度力を注いだかについて評定を求めた結果の平均値である。「非常に力を注いだ」を 5 点、「まあ力を注いだ」を 4 点、「どちらともいえない」を 3 点、「あまり力を注がなかった」を 2 点、「力を注がなかった」を 1 点とした。平均値が高いほどその活動に対し力を注いだと評定されたことを意味している。

最も値が高かった事項は、「卒論・修論・博論」の 4.1 点、次いで「クラブ・サークル活動」「就職活動」3.7 点、「授業」「アルバイト」3.6 点、「レジャー」3.4 点、「読書」3.3 点であった。

問 11. 誇りに思う学歴について

問 11-a 大阪大学を卒業／修了したこと

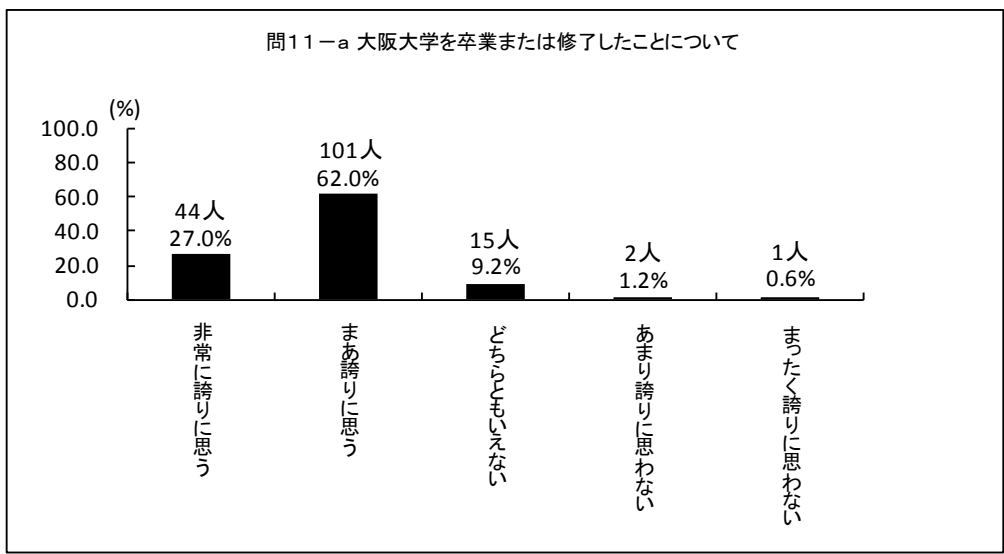


図 9 大阪大学を卒業／修了したこと

問 11-b 本学部／本研究科を卒業／修了したこと

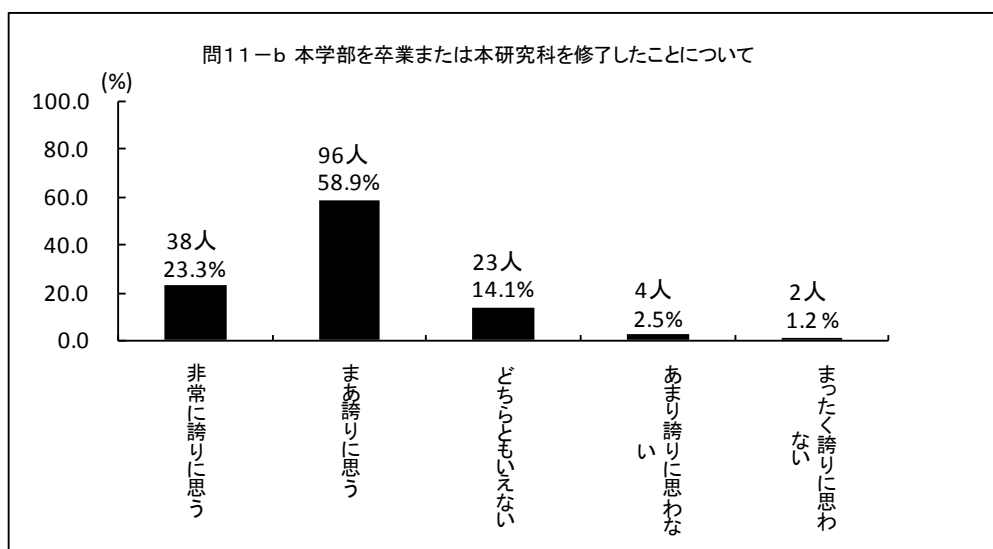


図 10 本学部を卒業／本研究科を修了したこと

図 9、10 は「大阪大学」および「本学部／本研究科を卒業／修了した」ことについてどの程度誇りに思っているかを質問した結果である。

「大阪大学を卒業／修了したこと」では、「まあ誇りに思う」101人(62.0%)が最も多く、次いで「非常に誇りに思う」44人(27.0%)、「どちらともいえない」15人(9.2%)であった(図 9 参照)。

「人間科学部／人間科学研究科を卒業／修了したこと」では、「まあ誇りに思う」96人(58.9%)が最も多く、次いで「非常に誇りに思う」38人(23.3%)、「どちらともいえない」23人(14.1%)であった(図 10 参照)。「誇り」に関しては「大阪大学」と「人間科学部／人間科学研究科」で類似した回答傾向が得られた。

問 11-c 専攻した研究分野

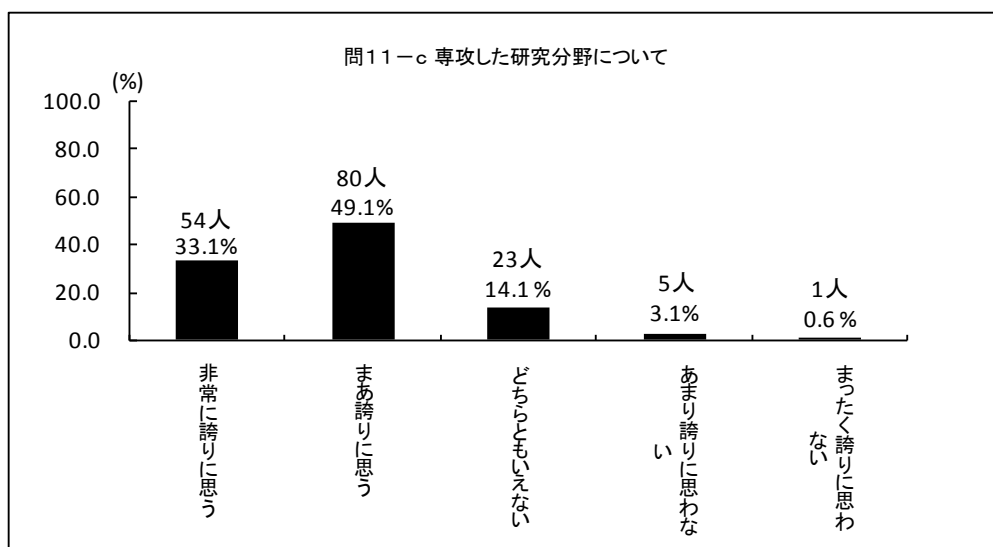


図 11 専攻した研究分野

図 11 は「専攻した研究分野」をどの程度誇りに思っているかを示したものである。「大阪大学、人間科学部／人間科学研究科」の結果（図 9、10）と比較して「非常に誇りに思う」の比率(33.1%)が高いことが特徴的である。

### 問 12. 最も愛着のある学歴

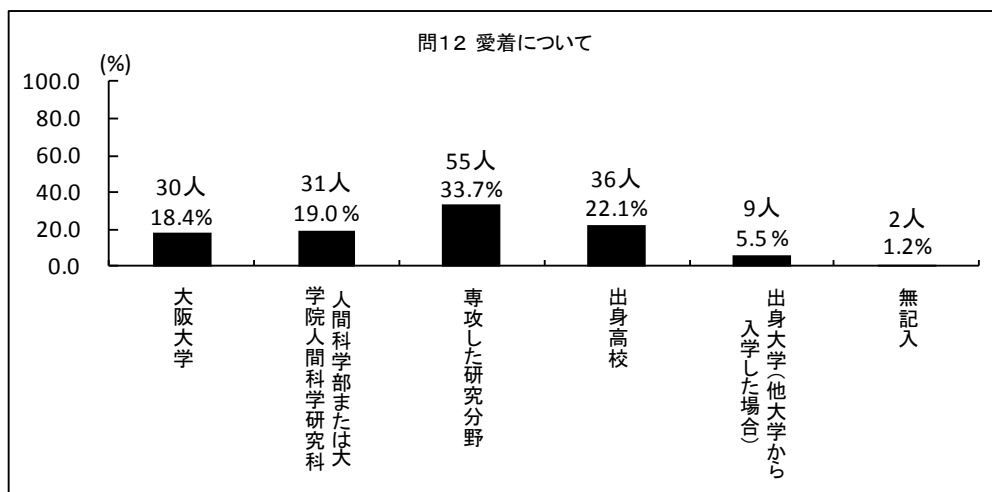


図 12 最も愛着のある学歴

図 12 は提示された 5 項目のうち最も愛着のある学歴について質問した結果である。「専攻した研究分野」55 人(33.7%)が最も多く、次いで「出身高校」36 人(22.1%)、「人間科学部／人間科学研究科」31 人(19.0%)、「大阪大学」30 人(18.4%)の順であった。

### 問 13. 授業評価について

#### 問 13-a 全学共通教育機構（豊中キャンパス）の授業評価

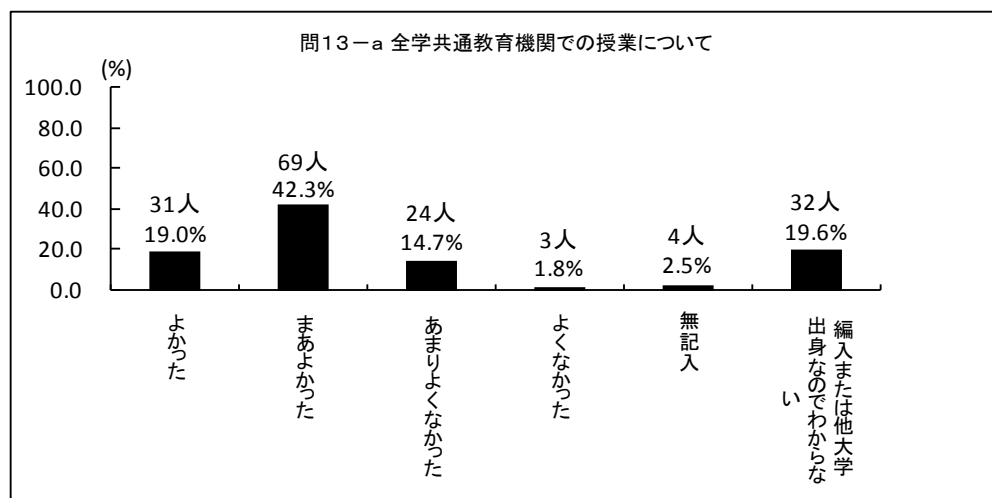


図 13 全学共通教育機構の授業評価

図 13 は全学共通教育機構（豊中キャンパス）の授業についての評価結果である。「まあよかった」69人(42.3%)が最も多く、次いで「編入または他大学出身なのでわからない」32人(19.6%)、「よかった」31人(19.0%)の順であった。

問 13-b 専門課程（吹田キャンパス）の授業評価

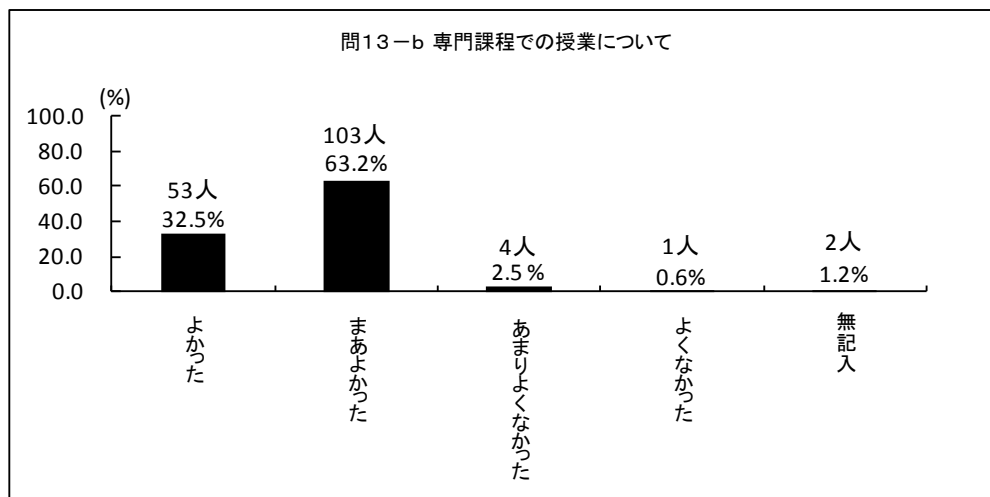


図 14 専門課程の授業評価

図 14 は専門課程（吹田キャンパス）での授業評価結果である。「まあよかった」103人(63.2%)が最も多く、次いで「よかった」53人(32.5%)の順であった。

問 13-c 数学の必修について

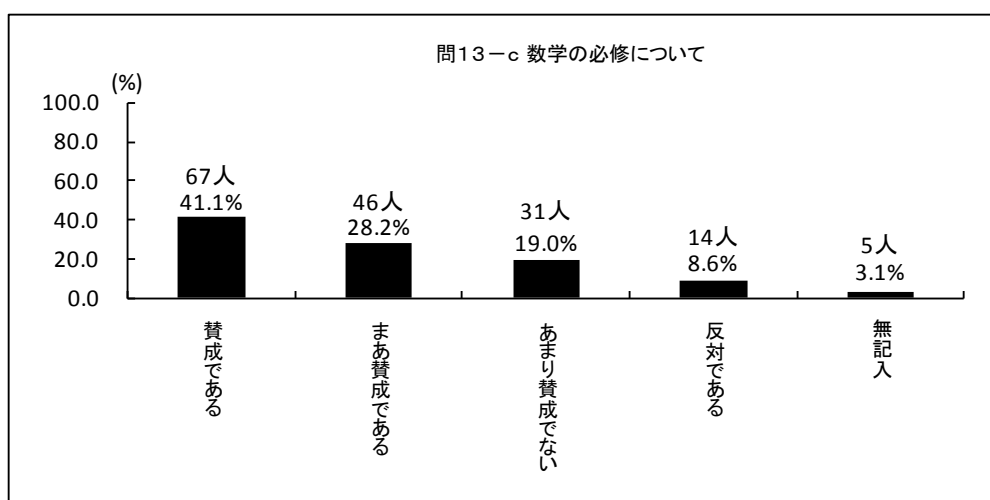


図 15 数学の必修について

図 15 は人間科学部が数学必修であることについての意見を聞いたものである。「賛成である」67人(41.1%)が最も多く、次いで「まあ賛成である」46人(28.2%)、「あまり賛成でない」31人(19.0%)であった。

問 13-d 統計学の必修について

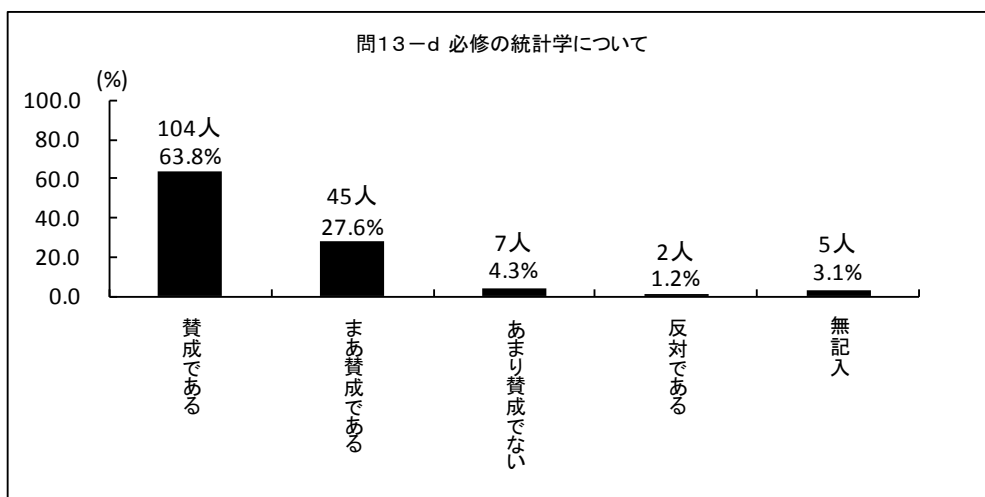


図 16 必修の統計学について

図 16 は同じく統計学が必修であることについての意見を聞いたものである。「賛成である」104人(63.8%)が最も多く、次いで「まあ賛成である」45人(27.6%)、「あまり賛成でない」7人(4.3%)の順であった。図 15、16 より、数学、統計学の必修については「まあ賛成である」を含めると、数学は約 7 割、統計学は約 9 割の学生が賛成しているといえる。

問 13-e 今後増やすべき授業形態

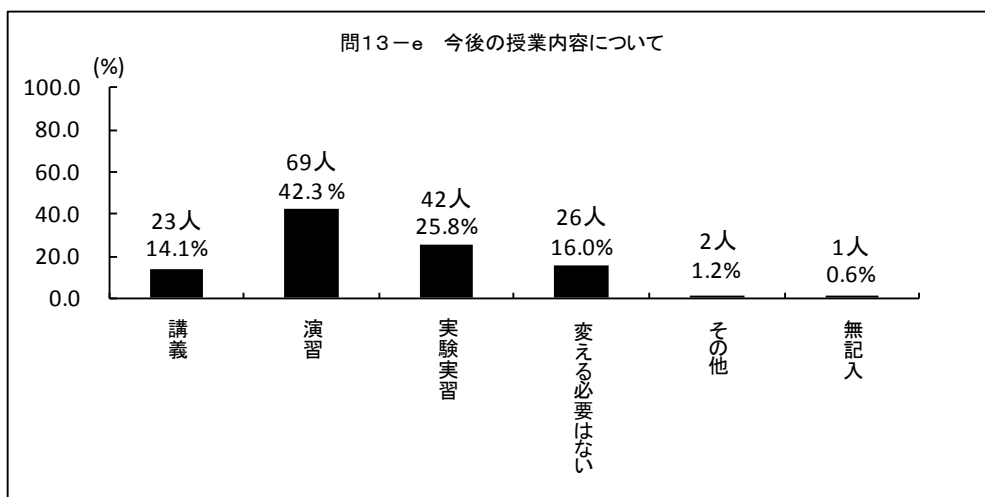


図 17 今後増やすべき授業について

図 17 は今後、授業の中身を変えるとすれば、最も増やすべきと思う授業形態について質問した結果である。「演習」69人(42.3%)が最も多く、次いで「実験実習」42人(25.8%)、「変える必要はない」26人(16.0%)の順であった。

問 14. 今後の育成で重視すべき知識や能力について

(「非常に重要」から「あまり重要でない」までを3段階で評定)

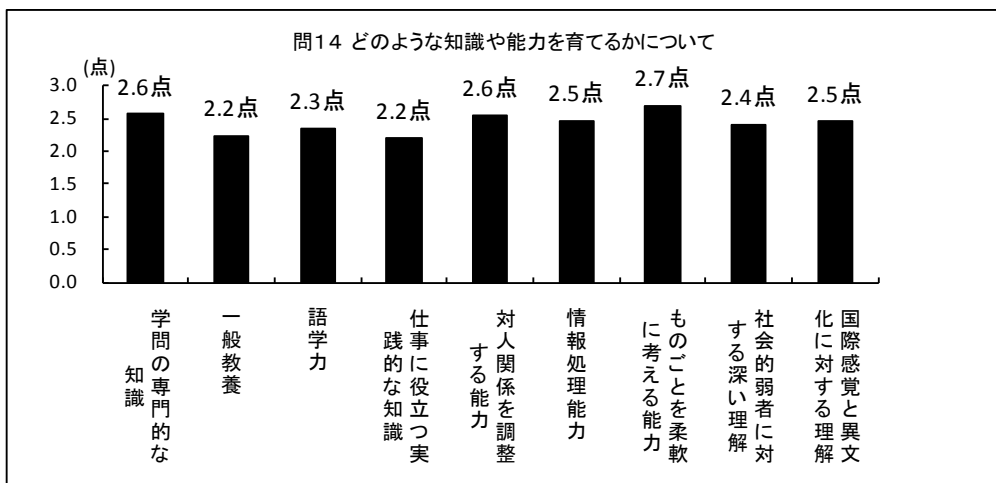


図 18 どのような知識や能力を育てるかについての平均値

図 18 は今後の育成で重視すべき9つの知識や能力事項に関して、それぞれどの程度重要に思うかについて評定を求めた結果の平均値である。「非常に重要」を3点、「やや重要」を2点、「あまり重要でない」を1点とした。平均値が高いほど重要と評定されたことを意味している。

「ものごとを柔軟に考える能力」2.7点、「学問の専門的な知識」および「対人関係を調整する能力」2.6点、「情報処理能力」および「国際感覚と異文化に対する理解」2.5点であった。ただし各事項の数値は2.2～2.7点の範囲に分布しており、全体的にどの知識や能力の事項についても重要であると評定されていた。

問 15. 就職先の満足度について

問 15-a 業種・業界に関して

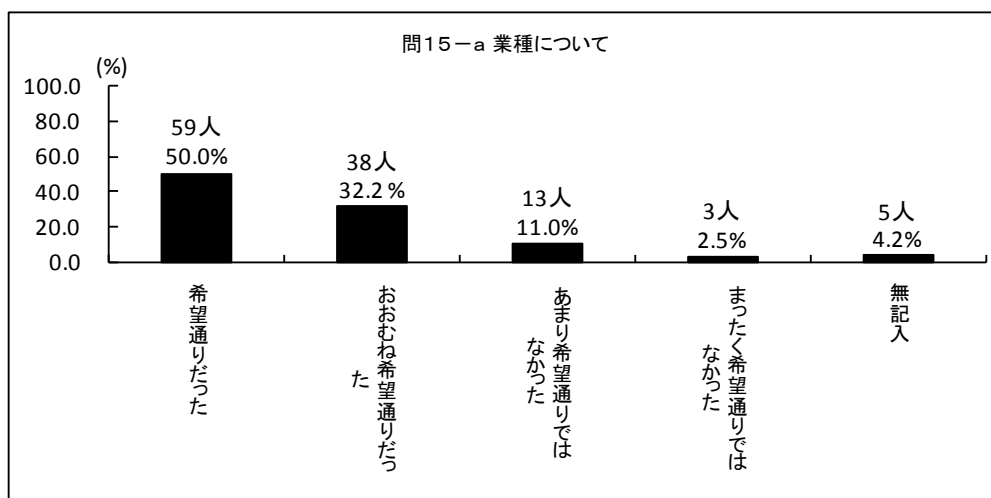


図 19 就職先の満足度 (業種・業界)

図 19 は就職先の業種・業界の満足度について質問した結果を示している（就職者のみ回答）。「希望通りだった」59人(50.0%)が最も多く、次いで「おおむね希望通りだった」38人(32.2%)であり、約8割が希望通りの業種・業界に就職したと回答した。

問 15-b 具体的な企業・官公庁等に関して

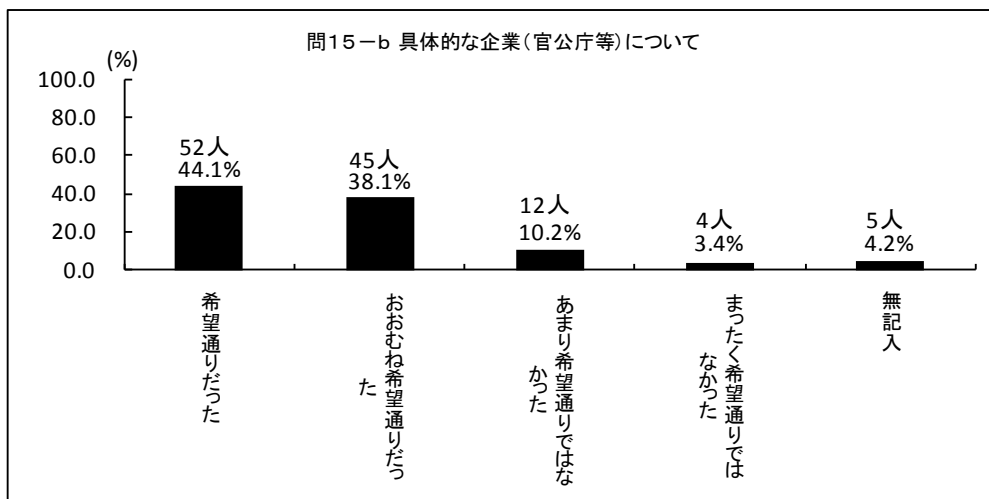


図 20 就職先の満足度（具体的な企業・官公庁等）

図 20 は就職先の具体的な企業・官公庁等の満足度について質問した結果を示している（就職者のみ回答）。「希望通りだった」52人(44.1%)が最も多く、次いで「おおむね希望通りだった」45人(38.1%)、であり、約8割が希望通りの企業・官公庁に就職したと回答した。

問 16. 本学部／本研究科の総合的な満足度について

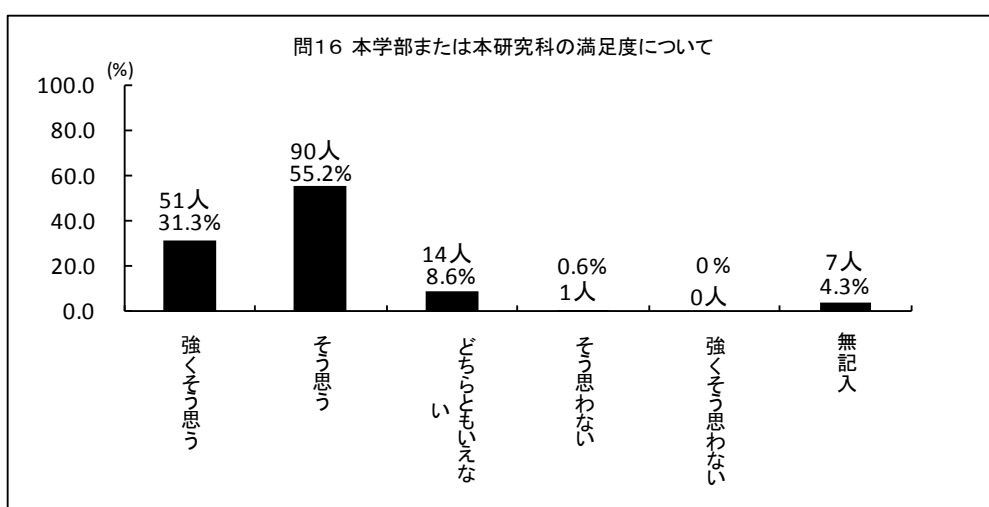


図 21 本学部／本研究科の満足度

図 21 は本学部／本研究科の総合的な満足度について質問した結果である。「そう思う」90人(55.2%)が最も多く、次いで「強くそう思う」51人(31.3%)であった。すなわち9割近く(86.5%)の学生／院生が本学部／本研究科に対して満足しているといえる。

※学系別満足度（人間科学部）

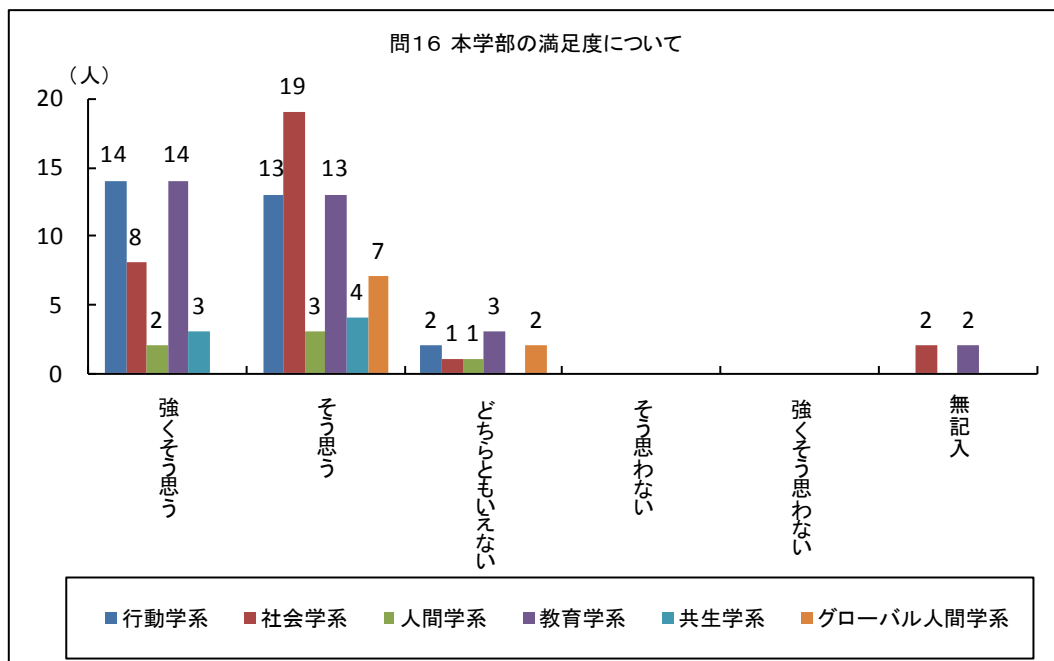


図 22 学系別満足度（人間科学部）

※学系別満足度（人間科学研究科）

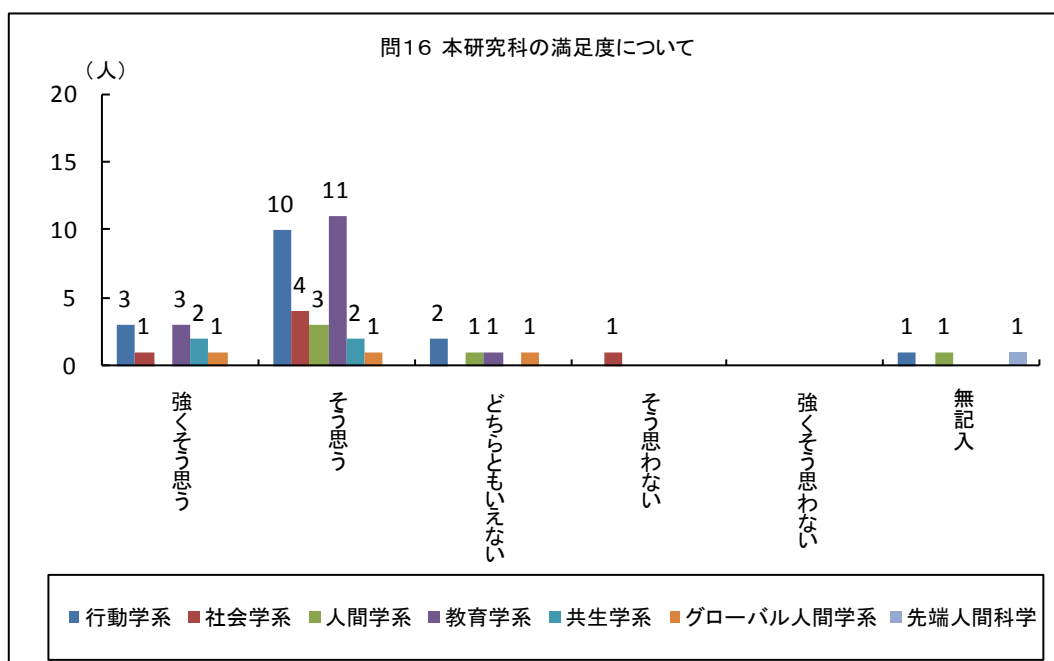


図 23 学系別満足度（人間科学研究科）



図 22、23 は問 16 の本学部／本研究科に対する総合的満足度の結果をそれぞれ学系別に集計した結果である。

図 22 より、学部生では行動学系学生 29 人中 14 人が「強くそう思う」、13 人が「そう思う」、社会学系及び人間学系学生 36 人中 10 人が「強くそう思う」、22 人が「そう思う」、教育学系学生 32 人中 14 人が「強くそう思う」、13 人が「そう思う」と回答した。人間科学部全体では、113 人中 100 人(88.5%)が「強くそう思う」または「そう思う」と回答した。

図 23 より、人間科学研究科全体(50 人)では、10 人が「強くそう思う」(20.0%)、31 人が「そう思う」(62.0%)と回答した。すなわち 82.0%の院生が満足しているといえる。

アンケート最後に設けた自由記述欄に記入された内容を以下に記す(6 名記入)

- ・もっと専門的な授業を充実させて欲しいです。例えば、「心理統計の授業を取りたい」と思った場合、週に 3 コマ(心理統計に関する)授業が取れるくらいの体制が整ってればいいと思います。
- ・浅く広くではなくて、専門性をもっと重視した授業を増やして欲しい。各分野に 1 授業ずつではなく、もっと深く知りたい人の為の授業(「～学 1」「～学 2」の様に)があると良い。一般的なことを前期授業したところで、紹介程度で終わってしまうのが、もったいないと思う。
- ・自分の子供がここに行くと言えば、間違いなく応援出来る。阪大人科で良かったと思います。
- ・人間科学研究科の理念は文理融合と学際性にあると感じ、自分自身もそれに共感する。しかし、その現状と課題は学系間、研究分野間、教員と学生の間、学生の間、全ての関係における協働の機会の少なさとその回避(あるいは無関心)の表れている。ハードの側面では、カフェテリアの様な、あるいはオープンスペースが無いことが問題だろう。空教室の貸出システムも教員の許可を介したものであったり、学生の主体性が十分に生かされていない。ソフトの側面では、情報の共有と発信の場プラットフォームが整備されていないことが問題だろう。学系横断型、あるいは研究室横断型の演習(半期で終わられる短期共同研究か計画立案)といったスタイルを導入したり、テーマ型の演習で各学系から数人ずつ抽出する講義があれば興味深いと思う。
- ・社会人学生は現時点では、有給休暇を取らねば出席出来ない講義が多い。受け入れるなら、やはり講義の時間帯を考慮して頂きたい。
- ・人間科学部は、幅広く教養を広げるような勉強も出来る一方、自分の興味のある分野を深く掘り下げる勉強も出来る非常に面白い学部で、5 年間で色々な事を学べました。ただ、授業に関しては、特に人科の専門に入ってからからの授業のレベルは低いものも多く、少し残念でした。(本を読めば理解出来ることしか教えてくれない授業・成績評価の方法が甘すぎたり、課題が少な過ぎる授業など・・・)



平成 21 年 3 月  
大阪大学大学院人間科学研究科  
大阪大学人間科学部  
評価委員会

## 2008 年度大阪大学大学院人間科学研究科修了生 及び人間科学部卒業生の生活と意識に関する調査

### 【ご記入にあたって】

- (1) 人間科学部を卒業される方は本学部での学生生活と意識についてご回答ください。  
大学院人間科学研究科を修了される方は本研究科での院生生活と意識についてご回答ください。
- (2) それぞれの質問について、選択肢のなかから当てはまる番号に○印をつけてお答えください（原則として○はひとつです）。
- 【例】 問 1 あなたの性別はどちらですか。

1. 男性

②. 女性
- (3) 選択肢ではなく、空欄に記入していただく質問もあります。□のなかに具体的な数字をご記入ください。

回答したアンケートは退出時に出口で提出してください。

最初にあなた自身についてお教えてください。

問1 あなたの性別はどちらですか。

1. 男性
2. 女性

問2 あなたのお生まれはいつですか。

西暦 

1	9		
---	---	--	--

 年 

--	--

 月

問3 あなたが卒業または修了したのはつぎのどれですか。

1. 人間科学部
2. 大学院人間科学研究科博士前期課程
3. 大学院人間科学研究科博士後期課程

問4 あなたは何か資格をお持ちですか。お持ちの場合、重要だと思うものを3つまで、お答えください。

1. 持っていない
2. 持っている  
具体的に ( )  
( )  
( )

問5 あなたは在学中に奨学金を受給していましたか。

1. 受けていなかった
2. 受けていた

つぎに、あなたの学生生活または院生生活についてお教えてください。

問6 あなたが本学部または本研究科に入学（あるいは編入学）されたのはいつですか。

西暦 

--	--	--	--

 年 

4
---

 月

問7 入学のときに本学部または本研究科を選んだ理由はどれですか（〇はいくつでも）。

1. 学部・研究科の理念に共鳴したから
2. 新奇性のある学部（研究科）だから
3. 自分の学力に合致していたから
4. 関心のある分野があったから
5. 通学に便利だから
6. 就職に有利だから
7. 授業料が安いから
8. その他（具体的に：                    ）

問8 あなたが所属していた学科目または学系についてお教えてください。

a あなたが所属していた学科目または学系はつぎのどちらでしたか。

1. 行動学
2. 社会学
3. 人間学
4. 教育学
5. 共生学
6. グローバル人間学
7. 先端人間科学

→学部卒業の方は次のbへお進みください。  
大学院修了の方は問9へお進みください。

b (学部卒業生のみご回答ください)  
あなたは学科目を決めるのに迷いましたか。

1. ほとんど迷わなかった
2. あまり迷わなかった
3. まあ迷った
4. 非常に迷った
5. その他 (具体的に: )

c (学部卒業生のみご回答ください)  
学科目の選択にあたって考慮した条件は、つぎのどれでしたか (〇はいくつでも)。

1. 学びたい内容の研究分野があったから
2. 魅力のある先生がいたから
3. 就職を考えて
4. 楽しそうだから
5. 希望した学科目にいけなかったから
6. 友人の影響で
7. 自由な時間が多そうだから
8. その他 (具体的に: )

問9 つぎのことは、卒業後の人生でどのくらい役に立つと思いますか。

a 専攻した研究分野で学んだ内容。

1. 非常に役に立つと思う
2. まあ役に立つと思う
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たないと思う
5. まったく役に立たないと思う

b 「大阪大学」卒業または修了という肩書き。

1. 非常に役に立つと思う
2. まあ役に立つと思う
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たないと思う
5. まったく役に立たないと思う

c 特に「人間科学部」卒業または「人間科学研究科」修了という肩書き。

1. 非常に役に立つと思う
2. まあ役に立つと思う
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たないと思う
5. まったく役に立たないと思う

問10 学生生活または院生生活の中で、あなたはつぎの活動について、それぞれどの程度力を注いでいましたか。

	非常に力を注いだ	まあ力を注いだ	どちらともいえない	あまり力を注がなかった	力を注がなかった	該当しない
a. クラブ・サークル活動	1	2	3	4	5	6
b. 授業	1	2	3	4	5	6
c. 卒論・修論・博論	1	2	3	4	5	6
d. 読書	1	2	3	4	5	6
e. 研究会・読書会	1	2	3	4	5	6
f. 就職活動	1	2	3	4	5	6
g. 資格試験準備	1	2	3	4	5	6
h. アルバイト	1	2	3	4	5	6
i. レジャー	1	2	3	4	5	6
j. 社会活動	1	2	3	4	5	6
k. 自治会	1	2	3	4	5	6

問 11 あなたは、つぎのことをどのくらい誇りに思っていますか。

a 大阪大学を卒業または修了したこと。

1. 非常に誇りに思う
2. まあ誇りに思う
3. どちらともいえない
4. あまり誇りに思わない
5. まったく誇りに思わない

b 人間科学部を卒業または修了したこと。

1. 非常に誇りに思う
2. まあ誇りに思う
3. どちらともいえない
4. あまり誇りに思わない
5. まったく誇りに思わない

c 専攻した研究分野で学んだこと。

1. 非常に誇りに思う
2. まあ誇りに思う
3. どちらともいえない
4. あまり誇りに思わない
5. まったく誇りに思わない

問 12 つぎの中で、あなたにとってもっとも愛着があるのは、どれですか。1 つだけお選びください。

1. 大阪大学
2. 人間科学部または大学院人間科学研究科
3. 専攻した研究分野
4. 出身高校
5. 出身大学（他大学から入学した場合）

大学教育について意見をお聞かせください。

問 13 あなたが大学で受けた授業について、総合的な評価をお聞かせください。

a 全学共通教育機構（豊中キャンパス）での授業はいかがでしたか。

0. 編入または他大学出身なのでわからない
1. よかった
2. まあよかった
3. あまりよくなかった
4. よくなかった

b 専門課程（吹田キャンパス）での授業はいかがでしたか。

1. よかった
2. まあよかった
3. あまりよくなかった
4. よくなかった

c 人間科学部では数学が必修ですが、あなたはこれに賛成ですか。

1. 賛成である
2. まあ賛成である
3. あまり賛成でない
4. 反対である

d 同じく必修の統計学については、どう思われますか。

1. 賛成である
2. まあ賛成である
3. あまり賛成でない
4. 反対である

e 今後、授業の中身を変えるとすれば、もっとも増やすべきだと思う形態はつぎのうちどれですか。

- 1. 講義
- 2. 演習
- 3. 実験実習
- 4. 変える必要はない
- 5. その他（具体的に：                    ）

問 14 人間科学部では、今後どのような知識や能力を育てることが重要だと思われませんか。

	非常に重要	やや重要	あまり重要ではない
a. 学問の専門的な知識	1	2	3
b. 一般教養	1	2	3
c. 語学力	1	2	3
d. 仕事に役立つ実践的な知識	1	2	3
e. 対人関係を調整する能力	1	2	3
f. 情報処理能力	1	2	3
g. のごとを柔軟に考える能力	1	2	3
h. 社会的弱者に対する深い理解	1	2	3
i. 国際感覚と異文化に対する理解	1	2	3

→卒業後または修了後、就職される方は問 15 へお進みください。  
それ以外の方は問 16 へお進みください。

つぎに就職先についてうかがいます。

問 15 あなたは希望通りのお仕事に就くことができましたか。

a 業種（勤め先の業界）についてはいかがでしたか。

- 1. 希望通りだった
- 2. おおむね希望通りだった
- 3. あまり希望通りではなかった
- 4. まったく希望通りではなかった

b 具体的な企業（あるいは官公庁等）はいかがでしたか。

- 1. 希望通りだった
- 2. おおむね希望通りだった
- 3. あまり希望通りではなかった
- 4. まったく希望通りではなかった

最後に、本学部または本研究科に対する総合的な意見をうかがいます。

問 16 総合的に判断して、本学部または本研究科は満足できるものでしたか。

- 1. 強くそう思う
- 2. そう思う
- 3. どちらともいえない
- 4. そう思わない
- 5. 強くそう思わない

ご協力ありがとうございました。以下、ご意見・ご感想がございましたら、ご自由にお書きください。